

学 校 園
名

宝塚市立 仁川 幼稚園

1 学校教育目標

心豊かに たくましく生きる子どもの育成

◇自己発揮し、明るく元気に遊ぶ

◇力いっぱい挑戦し、最後までやり抜く

◇心を動かし、互いに思いやり支え合う

2 重点目標

- ・主体的に考え、活動する幼児の育成に努める。
- ・豊かな感性を育み創造力、思考力、道徳性の芽生えを培う。
- ・安心・安全な幼稚園づくりに努め、基本的生活習慣と態度を育成する。
- ・幼稚園と家庭、地域、保育所及び小中学校との連携を密にし、相互理解を深める。

3 学校自己評価結果（A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善）

領域	評価の観点及び評価項目		達成状況	学校の取組状況・改善の方策	4 評価項目ごとの学校関係者評価
学校運営	開かれた幼稚園づくり	・情報発信 ・園庭開放 ・保護者の保育参観、参加	B	○ 地域の方や保護者参加型の行事や参観を実施し、多くの方に園児の様子を知っていただく機会を設けている。 ○ 毎日のスライドショーで園児の様子を放映すると共に、週3回、園児の育ちを伝えるお迎え広場を実施している。 ○ ドキュメンテーションやアプリを活用したりして、保護者に園児の様子や育ちを配信し、情報発信に努めている。 ○ ホームページの更新にさらに力を入れ、地域に園の取り組みを広める。	・参観の実施の回数については子どもの様子を知るには適当であった。 ・園児の様子を毎日写真やドキュメンテーションで保護者に知らせているのがよかった。 ・園の取り組みや園生活について未就園児家庭に直接伝わるような工夫が必要。
	安全危機管理体制整備 保健衛生管理	・安全・防災対応 ・安全点検 ・衛生管理 ・個人情報の保護	C	○ PTA と共催で交通安全教室を開催できた。 ○ 安全・防災マニュアルに基づき全職員で共通理解を図りながら、様々な想定で避難訓練を定期的実施できている。 ○ 安心して園に子どもを預けてもらえるよう、避難訓練や不審者対応訓練などの取り組みを保護者に発信していく。 ○ 保健衛生では、発達段階に応じた手洗い・うがい指導等、各種保健指導に努めている。 ○ 毎朝、安全点検をし、点検結果の共有を職員朝会で行っている。 ○ 園門付近の防犯対策に更に力を入れる。	・年間を通し、定期的に訓練を行うことで、「自分の命は自分で守る」意識が高まっている。保護者や地域にも安全危機管理の取り組みを広めるとよい。取組をアピールすることで保護者の安心感や、実際の防犯に繋がる。
	教職員の資質向上	・教職員が明確な課題意識をもった学び合い ・教職員の連携 ・深い幼児理解 ・保育カンファレンスの充実	B	○ 日常的に保育カンファレンスを実施し、幼児の「自分からやってみる・決める・つながる」が溢れる保育に努めている。 ○ 他市の公立幼稚園や近隣の保育園の研修会に参加し、保育の幅を広げるように努めている。 ○ 近隣保育園や小学校との授業参観や保育参観、保幼小の教師と保育士の研修を更に充実していけるように努力する。	・子ども主体保育を常に模索しながら充実した保育内容になるよう努めている。 ・子どもを全教員の目で見守り、連携や学び合いができています。

教育課程	幼児期にふさわしい生活の工夫	・ 3・4・5歳児の発達年齢に即した主体的に学ぶ力や人とつながる力の育成	B	○ 幼児の興味関心に沿った遊びの環境の充実に努め、主体性の発揮につなげている。 ○ 幼児同士の気持ちをつなぎ、共に力を合わせて生活する喜びを感じられる援助を実践している。 ○ 3・4・5歳児の縦のつながりを大切にした保育の計画、実践についてさらに力を入れていく。	・ 子どもたちが生き生きと楽しく遊んでいる様子から、子ども主体の保育が展開されていると捉えられる。
	基本的生活習慣の育成及び道徳性の芽生えの育成	・ 生活習慣の確立 ・ 発達に応じた道徳性の芽生えの育成	B	○ 人とのかかわりの中で、人の考えに流されずに物事の善悪の判断し、行動できるように、個別に、学級全体で話し合う機会を大切にしている。 ○ 衣服の着脱や身辺整理、遊びの片付け、食事等、自分でのことは自分でしようとする心や態度を家庭とも連携しながら育てていきたい。	・ 発達に応じた生活習慣が身についている。今後も家庭と連携して進めていくとよい。 ・ 自分のことは自分でしようとする自立の力をはぐくんできていると感じる。
	人権教育の推進	幼児期にふさわしい人権意識の育成	A	○ 自分を大切に思う気持ち（自尊感情）がもてるように一人一人の良さを見つけて認めるようにしている。自尊感情の育ちにより、友達のことも大切にしよう、気持ちを分かろうとする姿がそれぞれの学年で育っている。 ○ 異年齢交流を通して、思いやりの気持ちが遊びや生活の中で育まれてきている。	・ 子どもたちは友達や異年齢で遊ぶ中で、相手の立場になって物事を考える力が育ってきている。 ・ 人権教育の重要性について、引き続き保護者啓発を図っていくことが大切。
課題教育	校種間連携	近隣保育所・小学校との交流	B	○ 小中学校への学校見学（運動会予行・音楽会直前練習）や給食交流、和太鼓交流、小学校栄養教諭による食育授業、トライやるウィークを実施することで小学校への期待や小中学校の先生やお兄さんお姉さんへの親しみや憧れの気持ちにつながっている。 ○ プレ1年生の近隣幼保5園の交流を継続すると共にウエル保育園との定期的な交流を実施している。 ○ 保・小・中との交流や連携を通しての園児の育ちを保護者に発信していく。	・ 仁川小学校だけでなく他の小学校とも交流するなど積極的に小学校と連携をとろうとしている。今後も続けていくとよい。取り組みの内容を保護者にもっと知らせていくとよい。
	特別支援教育の充実	個別の教育支援計画指導計画に基づいた幼児の発達に即した支援内容の工夫	A	○ 特別支援教育園内委員会で支援を要する子どもたちの実態について共通理解し、具体的な目標や手立てについて協議し、共有し、保育を進めている。 ○ 個別の支援計画を活かし、丁寧に育ちや課題を読み取り実践につないでいる。	・ 対象児について全職員が共通理解して対応できている。

独自項目	地域連携	まちづくり協議会等地域組織との連携	B	○ 関西棋院の棋士の先生による囲碁教室や地域の方による和太教室が園児たちの楽しみとなっている。 ○ ハイキング、祭り等、地域・保護者の協力により、子どもたちの体験が広がってきている。 ○ 民生委員やまちづくり協議会のメンバーと昔遊びを実施した。今後はもっと連携を深め、園だけではできない経験・体験を園児ができる機会を増やしていく。	・ 民生委員を園に招いてふれあい遊びを行うなど、地域との連携に力を入れている。園だけでなく地域で子どもを育てることが大切。今後も積極的に連携を図ってほしい。
	子育て支援の推進	・ 預かり保育の充実 ・ 子育て相談の充実 ・ 学びの場の提供 ・ 未就園児親子の支援	B	○ 副園長を中心に未就園児親子遊びの会「プチいちご」を月2～3回実施できている。子ども同士のつながりと共に、保護者同士のネットワークづくりに努めている。 ○ マニュアルに則りながら、できる限り預かり保育を実施している。 ○ PTAと協力して「なかよしひろば」「ふれあい学級」を実施し、未就園児親子も参加する機会をもった。 ○ 保護者が子育ての悩みを気軽に相談できるように今後も適切な対応を考えていく。	・ 毎日の園庭開放や季節ごとの行事など、未就園児が遊べる場や園児と触れ合える場を多くもつことができている。 ・ 未就園児教室や園庭開放など、在園児のいない未就園児家庭も広く利用できるように、更なる情報発信や利用できる時間帯の工夫を講じるとよい。

5 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

保護者アンケートの結果をふまえた幼稚園の自己評価を基にして、学校関係者評価委員会で協議するという適切な方法で、実施できている。また、アンケートの意見・感想に対しても丁寧にフィードバックして

6 総合的な学校関係者評価

園の様子、保護者アンケートの集計結果や学校関係者のご意見等から、園児が心身ともに健やかに成長していると感じる。また、保護者や地域と連携しながら園運営できていると捉える。